

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

【実践者】

氏名	井土 恵美里	学校名	埼玉県立幸手桜高等学校
担当教科等	国語（古典研究）	対象学年（人数）	3 年（19 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2025 年 9 月 ～ 11 月（15 時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：古典研究（学校設置科目）		
2. 単元名と単元目標 単元名：文化・価値観の古今東西「社会でより良く生きるとはどのようなことか考えよう」 単元目標： （１）古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。【知識・技能】（伝統的な言語文化・古典探究（ア）） （２）古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。【思考・判断・表現】（○考えの形成、共有【①】・古典探究（カ）） （３）話し合いに積極的に参加し自分の考えを深めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 関連する学習指導要領上の目標：学校設置科目のためなし（単元目標と同様）		
3. 単元の評価 規 準	①知識・技能	古文、漢文の重要な単語、文法、句形を理解できる。時代背景について理解できる。
	②思考・判断・表現	「国際社会」で生きるということ、「ジェンダーとは何か」ということについて自分なりに考えをまとめ、他者に伝えることができる。
	③主体的に学習に取り組む態度	話し合いに積極的に参加し自分の考えを深めようとしている。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 本単元を通して、国際社会における「ウェルビーイング」について、考えてほしい。今年度、教師海外研修にて、タンザニアで研修を受けた。そこでの学びも生かし、「とりかへばや物語」の舞台である日本、「四面楚歌」の舞台である中国、そしてタンザニアの価値観の変遷を比較して、再度、日本でより良く生きるということや、国際社会でより良く生きるということについて考える機会にしたい。発展途上国をただ遅れている国などと捉えるのではなく、国を超えた「共生」のために必要なこと、日本さらには国際社会の更なる発展のために意識しなければならないことを主体的に考えられるようにする。 【単元の意義】 SDGsの達成目標の中、日本の大きな課題とされている上に、生徒の関心もある「ジェンダー」を1つの軸として設けて、日本社会や国際社会を捉える上での視点を具体化する。それにより、日本の課題、世界の課題、そして自分自身とその周囲の課題について、真摯に考える契機を作り、生徒なりの解決策を考えられるようにする。	

【児童／生徒観】 本校は、「商業を中心とした総合学科」として展開されているため、高校卒業後、就職する生徒が多い学校である（今年度は半数以上が就職希望）。本来、「働くこと」や「生きること」について、具体的に考える必要があるが、求人数も多く売り手市場であることから、「社会で生きる」ということについて実感が湧いていないように見受けられる生徒も多くいる。生徒が働くような企業には、技能実習生のような発展途上国から日本に働きに来ている方も多くいることが予想される。そこで、発展途上国と先進国における職業観を軸に、再度、働くことや、社会で生きることについて考える契機にしてほしい。 【指導観】 古典の授業で、源氏物語の若紫について学習した際に、「ジェンダー」についての意見が生徒から上がった。そのため、現在、生徒の興味関心が湧いている「ジェンダー」を軸に社会を見られるように授業を展開する。「ジェンダー」に関する捉え方や、考え方は多様であるため、基本的には生徒の意見を否定することなく、多くの視点を持てるように指導したい。				
5. 単元計画（全 15 時間）				
	小单元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	タンザニアについて知ろう 「とりかへばや物語」を読解しよう	・「とりかへばや物語」の世界を理解できる。 ・平安時代の文化・価値観を理解できる。 ・当時の男女の描かれ方の違いを学び、現代と比較できる。	・重要単語、文法事項確認。 ・読み方の確認。 ・登場人物の性格、話の展開を理解する。 ・日本古来の固定観念について理解する。	自作プリント 自作スライド
10	「四面楚歌（時利あらず）」を読解しよう	・「四面楚歌」の世界を理解できる。 ・紀元前の中国の文化・価値観を理解できる。 ・当時の男女の描かれ方の違いを学び、現代と比較できる。	・重要単語、文法事項確認 ・読み方の確認。 ・登場人物の性格、話の展開を理解する。 ・中国古来の固定観念について理解する。	自作プリント 自作スライド
13	「ジェンダー」とはどのような概念か、再度確認し、理解を深めよう	・「ジェンダー」という考え方を理解できる。 ・日本、中国、タンザニアの「ジェンダー」に関する価値観や生き方の変遷を理解できる。	・シンデレラ・コンプレックスや SDGs 到達度を例に担当者が説明し、これまで学習してきた「ジェンダー」の概念をより明確に捉え、理解を深める。	自作プリント 自作スライド

			★知識構成型ジグソー法 (エキスパート活動) ●日本、中国、タンザニア、各国の価値観、生き方を考察する ・これまでの授業をもとに ①日本チーム ②中国チーム ③タンザニアチーム の3チームに分かれて、各国の価値観や生き方を検討する。 ★ジェンダーを軸に、価値観の表れ方を学び、現代と比較する	
14 本時	「ジェンダー観」の変遷を踏まえ、「ジェンダー平等」とは何か、「社会でより良く生きる」とは何か、自分の意見を明確にしよう。また、他者の意見を聞き、自分の意見を深めよう	・日本、中国、タンザニアの「ジェンダー」に関する価値観や生き方の変遷を理解できる。 ・3か国の価値観、生き方を比較し、各国の特徴を捉えられる。 ・自分の生き方や、より良く生きることについて再考できる。	★知識構成型ジグソー法 (ジグソー活動) ●①日本、②中国、③タンザニア、各国の価値観、生き方を比較し、価値観、生き方を再構築する ・①②③のチームを合わせて、話し合いをし、自分なりの「より良く生きること」や「社会で生きること」について考え、捉えなおす。 ★ジェンダーを軸に、価値観の表れ方を学び、現代と比較する	自作プリント 自作スライド
15	再度「とりかへばや物語」や「四面楚歌」におけるジェンダー観を見よう	・ここまで学習してきた「ジェンダー」という観点から、再度作品を鑑賞できる。	・前時までの学習を踏まえ、再度「とりかへばや物語」と「四面楚歌」に見られるジェンダー観を確認する。	自作プリント 自作スライド
6. 本時の展開 (14 時間目) 本時のねらい： ・日本、中国、タンザニアの「ジェンダー」に関する価値観や生き方の変遷を理解できる。 ・3か国の価値観、生き方を比較し、各国の特徴を捉えられる。				

・自分の生き方や、より良く生きることについて再考できる。		
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)
導入 (5分)	①本時の目標を確認する。	①前時の復習も行う。不明点等、最初に確認しておく。
展開1 (10分)	②前時の復習として、エキスパート活動での意見を再度共有する。 理解できていない点を班で話し合う。	②各班の到達度に応じて、臨機応変に時間を設定する。
展開2 (15分)	③ジグソー活動 1班～6班に分かれ、グループ活動を展開する。 ・A、B、C各班の話し合いの結果報告：5分 ・グループ活動：10分 →ジェンダー平等のために必要なことの優先順位を、ダイヤモンドランキングにする。	③机間巡視を実施し、各班の到達度を確認する。必要に応じて、声掛けを行い、話し合いが活発に行われるように補助する。
展開3 (5分)	④作成したダイヤモンドランキングを共有する。	
展開4 (10分)	⑤まとめとして、「ジェンダー平等のために必要なこと」「社会でより良く生きるとはどういうことか」という2つの問いに、回答する。	⑤生徒が自由に思考を深めることができるように、机間巡視はしつつも、極力声掛けは行わない。
まとめ (5分)	⑥この授業で気づいて欲しかったことや、理解してほしいことについて説明し、まとめとする。	⑥担当者自身の経験を踏まえ、現代の日本の「ジェンダー」について説明する。
7. 資料（教材） ・エキスパート活動：日本、中国、タンザニアのジェンダーの歴史に関する自作プリント →各国時代は4つに分けて変遷が分かるようにする。ダイヤモンドランキングを作成する。 ・ジグソー活動：各国のジェンダーの歴史を整理し、再度ダイヤモンドランキングを作成する自作プリント ・古典から見る『ジェンダー』：ジェンダーに関する以下の問いを記載した自作プリント ①ジェンダー平等のために必要なことは何でしょうか。 ②社会でより良く生きるとはどういうことでしょうか。		
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 ・机間指導による観察。 ・授業プリントの取り組み状況。 ・授業内発表。		

9. 学校外との連携 ※JICA 以外。なければ不要。 なし
10. 学びの軌跡（児童生徒の反応・変容、感想文、作文、ノートなど） 「本時」の最後に実施した「古典から見る『ジェンダー』」のプリントより以下抜粋。 1、ジェンダー平等のために必要なことは何でしょうか。 ・個人の中に差別思想や男尊女卑の考えが残っていれば根本が変わりきるとは言えないと思います。社会の悪い流れに流されることなく、個人が自分の考えをしっかりと持つこと。根本から差別思想等をなくすために何年かかっても良いので、政治や社会が動くこと。 ・価値観が違っても否定からは入らない ・他国の良いものは取り入れる。 ・ジェンダーが文化に関連する部分もあるがその部分を積極的に排除しようとする、その国の文化自体を否定することも起きてしまうかもしれないから、あまり過度に取り除くのはその国の人の反感を買うからいけないと思う。 =文化とジェンダーの上手な共生が大事 ・小さい頃からちゃんとした教育を受けないと売春や窃盗などをする子どもができてしまうし、差別が起きてしまう。 ・差別意識のあるものなのか、役割分担の範囲なのか判断をつけられるよう、知識をつけるべきであると思った。 2、社会でより良く生きるとはどういうことでしょうか。 ・「自分がされて嫌なことはしない」をモットーに生きる。 ・自分と他者のみんなが幸せになれるように思いやって生きること。 ・他者の考えを広く受け入れていくこと。 ・趣味ができる程の余裕を持つこと ・自分の意志をはっきり伝えられる環境。 ・差別と区別をしっかり分けた、行き過ぎたジェンダーをなくす。 ・広い選択肢の中から自分で決められること。

【本時または単元について、個人で振り返ったことを記載】

11. 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか	「先進国」「発展途上国」という経済を軸にした分類はあるが、文化・価値観に関する課題の根幹は共通するものがあると学んだ。今回は、「生きがい」を大きなテーマにし、「ジェンダー」という軸を立て視点を明確にした上で、各国の共通の課題、そしてそれを踏まえた上で、今後の生徒自身の生き方を見つめ直す契機にしたいと考えた。
12. 苦労した点	「社会が変わるべき点」と「個人が変わるべき点」の両面から考えてほしいと思ったが、資料に偏りがあり、「個人が変わるべき点」まで考えられるように手助けする点に苦労した。
13. 改善点	多様な視点から課題を捉えてほしいかったので、各国の資料の情報量が多くなり、生徒の処理能力を考慮できていなかった。次は、情報をさらに取捨選択し、生徒がより学びを深められるようにしたい。

14. 成果が出た点	「日本だから」「中国だから」「タンザニアだから」という国の括りを越えて、社会課題の根幹は共通であると考えられた生徒が多かった。ジェンダーに関しても、多くの生徒が自分の課題として捉えられていた。
15. 自由記述	海外の話をして「日本に生まれることができて良かった」などと、他人事にしてしまう生徒が多く、国際化の進む社会を生きる上で大切になる視点がかけているのではないかと感じていた。今回、授業をし、3か国の比較、社会課題の見直しをしたことで、少しずつではあるが、外国が自分に全く関係のない国ではないのだと気づいた生徒が多かったように思う。これから、生徒の視野を広げ、多くの視点を持てるような授業を展開したい。

参考資料・使用教科書：

近藤大介『ほんとうの中国 日本人が知らない思考と行動原理』（講談社、2025年8月）

遠藤みどり『日本の後宮』（中央公論新社、2025年8月）

長野ひろ子、姫岡とし子『歴史教育とジェンダー 教科書からサブカルチャーまで』（青弓社、2011年2月）

末次玲子『二〇世紀中国女性史』（青木書店、2009年5月）

相良匠俊『アジア・アフリカ独立の時代』（集英社、2002年11月）

鈴木裕子『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 とりかへばや物語』（KADOKAWA、2009年6月）

三角洋一、石埜敬子『住吉物語 とりかへばや物語』（小学館、2002年4月）

土屋徹『それ日本と逆！？文化のちがい 習慣のちがい① モグモグ食事のマナー』（Gakken、2012年2月）

土屋徹『それ日本と逆！？文化のちがい 習慣のちがい④ フムフム人生のイベント』（Gakken、2012年2月）

土屋徹『それ日本と逆！？文化のちがい 習慣のちがい 第2期① ニコニコ学校生活』（Gakken、2017年2月）

片桐圭子『地理×文化×雑学で今が見える 世界の国々』（朝日新聞出版、2019年9月）

フリーポート 藤井勝彦『もっと知りたい！世界の国ぐに ビジュアル事典 改訂版』（メイツユニバーサルコンテンツ、2020年6月）

川村哲也『地図でスッと頭に入るアフリカ55の国と地域』（昭文社、2023年11月）

富永智津子、永原陽子『新しいアフリカ史像を求めて一女性・ジェンダー・フェミニズム』（お茶の水書房、2006年12月）

山口昭男『新編 日本のフェミニズム10 女性史・ジェンダー史』（岩波書店、2009年2月）

若桑みどり『お姫様とジェンダー—アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』（筑摩書房、2003年6月）

加藤秀一『はじめてのジェンダー論』（有斐閣、2017年4月）

独立行政法人労総政策研究・研修機構「女性の地位向上とジェンダー平等の進展—国家統計局による最新モニタリング報告」

https://www.jil.go.jp/foreign/jihou/2025/06/china_02.html

日本ペンクラブ電子文藝館

<https://bungeikan.japanpen.or.jp/3518/>

京都市選挙委員会

https://www2.city.kyoto.lg.jp/senkyo/senkyoFriends_html/senkyo/history.html